

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 10, No. 2 神奈川県立生命の星・地球博物館 Jun., 2004



カンテンダコ

Haliphron atlanticus Steenstrup, 1852

KPM-NG0020234

A: 全体 (オレンジ色のスケールは50センチメートル); B: 基部の吸盤の拡大;
C: 眼の拡大.

佐藤武宏撮影.

さとうたけひろ
佐藤武宏 (学芸員)

水産総合研究所相模湾試験場は、漁業者の方々と間近に接することが多いため、時々面白い生きものを博物館で紹介してくれることがあります。

その試験場の石黒雄一さんから電話があったのは、2002年12月20日のことでした。真鶴の沖約2キロメートルの場所で、漁業者の方が水面に浮かんでいた、大きくて不思議なタコをすくい上げ、たまたま近くにいた試験場の船に渡してくれた、というのです。

このタコは全長が1メートルに達する大きな個体でした。博物館に持ち帰って観察した結果、体が寒天質であるこ

と、傘膜が腕の先端近くまで発達していること、吸盤が基部で1列、端部で2列に並ぶことなどの特徴から、このタコをカンテンダコと同定しました。調べてみると、カンテンダコの採集記録や、標本は極めて珍しいことがわかりました。

通常、水深数百メートルのやや深い場所に生活しているカンテンダコが、なぜ海面を漂っていたのかはわかりません。しかし、類い稀なる偶然の結果、博物館にたどりついた、ということだけは確かです。保存のためホルマリン水槽に収めましたが、寒天質なためか、しっかり固定されず、今でもプルプルンとしています。